

1 主に使用する収蔵資料

明 3311 - 63 「露西亜帝国臣民又ハ宗教ニ対シ不心得ノ行動無之様取締方各郡長及各県立学校長へ通牒」



日本政府からの通牒（通知）を受け、県から各郡長、学校長へ出された文書です。日露戦争が展開するにつれ、ハリストス教（ロシア正教）信者への暴行や脅迫、墓石の破壊などが見られるようになりました。これに対し、日本政府は、日露戦争が宗教上の争いから起こった戦争ではないことから、これらの行為を不心得であると断じ、教育の場でも誤解せぬよう指導すべきと通達したものです。

ロシアとの戦争により、ロシアに関連する宗教の信仰によって差別されることがないようにしたいとする、当時の日本政府の人権に対する姿勢をみることができます。

2 指導例

(1) 本時のねらい

- ・文書館収蔵資料を調べたり、学芸員の解説を聞いたりすることで、日露戦争中の一般人の意識に触れ、日露戦争に関する理解を深める。

(2) 展開例

学習活動・学習内容	○指導上の留意点	資料等
1 前時の振り返りをする。 ・日清戦争 ・下関条約 ・三国干渉 ・遼東半島	○日清戦争後の各国の動き、思惑について触れる	
2 本時の課題を知る	ロシアの東アジアへの進出に対して、日本はどのような行動をとったのだろうか	
3 資料を調べ、日露戦争勃発	○年表等で出来事を調べさせる。	・教科書等の年表

<p>までの流れをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・義和団事件</li> <li>・日英同盟</li> <li>・日露戦争</li> </ul> <p>4 資料から日露戦争中の国民生活について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・与謝野晶子「君死にたまふことなかれ」</li> <li>・文書館資料</li> </ul>	<p>○戦費や投入された兵隊の数、死傷者等のグラフを調べ、戦況が日清戦争と異なり厳しい状況にあることに気づかせる。</p> <p>○「君死にたまふことなかれ」から、戦場に行く家族を思う悲しみの気持ちについて考える。</p> <p>○文書館資料の概略を読んだり、学芸員の解説を聞いたりして、日露戦争を理由に在日ロシア人に危害を加えることを政府は許さず、一般市民の人権を守ろうとしていたことをつかませる。</p> <p>○対外的には、アジアの国が東ヨーロッパの国に勝利したことで、アジア・アフリカ諸国を勇気づけたことに触れる。</p> <p>○国内的には戦争による損害が大きいものの賠償金を得ることができず、不満をもった人々の暴動が起こったことに触れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日清戦争と日露戦争の戦費等を比較するグラフ</li> <li>・与謝野晶子「君死にたまふことなかれ」</li> <li>・明 3311 - 63 「露西亜帝国臣民又ハ宗教ニ対シ不心得ノ行動無之様取締方各郡長及各県立学校長へ通牒」</li> </ul>
<p>5 日露戦争の結果について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポーツマス条約</li> <li>・日比谷焼き討ち事件</li> </ul>	<p>6 まとめと振り返りをする。</p>	
<p>日英同盟を結んだ日本は、多くの戦死者を出しながらも日露戦争で勝利した。戦争中は、国内の経済が悪化したり、相手国の国民に危害を加えたりするようなことが起きた。戦後処理の結果は、戦争に耐えてきた国民にとって不満の残るものであり、日比谷焼き討ち事件のような暴動も起きた。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を振り返り、アンケートに記入すること</li> </ul> <p>7 文書館について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文書館の紹介を聞くこと。</li> </ul>	<p>○記入漏れがないよう、アンケート項目を簡単に確認する。</p> <p>○文書館の役割や子供向けイベントを簡潔に紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文書館紹介スライド</li> </ul>

3 担当より

- ・本指導例は、中学校学習指導要領社会科歴史的分野の内容C（1）ア（ウ）・イ（ア）（イ）を受けたものです。日露戦争に至る過程と戦争後の日本の様子についてとり上げています。
- ・日清・日露戦争の学習は、戦況や条約など外交がメインとなることが多くなりがちです。今回の学校への通牒のように、人々の生活の様子が分かる資料を使うことで、国家間の争いの中の人々のくらしぶりを見ることができます。そして、国家間の外交という視点、国民の生活という視点など、視点を変えてみることができ、日露戦争を多面的に考察する機会を設けることができます。
- ・他にどのような資料があるかなど、別の資料を御利用希望の場合は、当館HPの「収蔵資料検索システム」で調べることができます。詳しくは当館の学校支援担当に御相談ください。